浜松で
就職した先輩の
ライフスタイル

はまっでは たらく

Work Life

浜松にはどんなシゴトがあって、
先輩たちは、
なぜその職業を選んだのか。
一度は浜松を離れ、
就職のために戻った人。
浜松に来て、浜松を選んだ人。
ずっと浜松での生活を選んだ人。
浜松で暮らし、いま働いている先輩の
仕事内容や働き方、ライフスタイルを
インタビュー取材しました。

※Zutto：進学も就職もずっと地元

Z utto　U turn　I turn　J turn

コツコツ、歴女（レキジョ）考
浜松の歴史を発掘中

古学の世界では、土器の破片を見ただけで、それがどの時代にどう使われていた器なのかを言い当てられなければ一人前の発掘調査員とはいえない。その発掘調査員の仕事に就いて今年で3年目。勤め先のフジヤマは、測量・調査・土木設計などを行う建設総合コンサルタント会社で、山口さんは埋蔵文化財の発掘調査を行う部署に所属している。5人の調査員のうち一番年下で唯一の女性。入社1年目に東区の笠井西浦遺跡の調査に関わり、2年目には浜松城を囲む土塀の発掘調査を先輩と一緒に担当した。

発掘調査の仕事は①調査地の土を重機や人力で掘る ②遺跡のある地層に近づいたら手作業に切り替え、少しずつ土を削る ③遺物が出てきたら竹ベラなどで慎重に掘り進める ④遺跡が現れたら写真測量や3Dレーザーなどで計測する ⑤報告書をまとめるという流れだが、フジヤマでは発掘後の遺跡の保存活用計画の立案も行う。

調査は夏の猛暑も冬の酷寒も関係なし。土を掘ったり削ったりして作業が終わる頃には全身土まみれだ。それでも「遺物や遺構が出たときのうれしさの方が大きいから」と笑顔をのぞかせ土に向かう。

小学生の頃から考古学ファンだったという山口さん。高校時代は就職に有利と理系の大学を目指していたが、「やっぱり好きなことを学びたい」と高3で突如文系に鞍替えし、富山大学人文学部に進学。考古学研究室で好きな分野を思う存分学んだ。しかし実際の就職となると、研究室の仲間たちはアパレルや食品関係など専門外の仕事に就く人がほとんど。それでも山口さんは発掘調査の仕事にこだわった。

発掘調査の専門部署を持つ民間会社は数少ない。

「就職試験はここしか受けていません。この会社に出会えて本当にラッキー。自宅から通えるし、好きなことを仕事にできるのってすごく楽しいから」

発掘現場では調査以外にスケジュール管理や土を掘る作業員たちへの指示も担当。専門的なスキルのほか、マネジメント力やコミュニケーション能力も必要とされる。調査終了後には発掘した土器などの復元や、報告書をまとめる仕事が待っている。

「私はどちらかというと調査よりも報告書をまとめる方が好き。自分が調査したことを学術的な資料としてカタチに残せることにやりがいを感じます」と山口さん。いずれは先輩たちのように発掘後の遺跡の活用法を立案したいと瞳を輝かせた。

埋蔵文化財の調査・記録・保存
史跡を保存・活用するための調査・計画

発掘調査員
山口七奈枝さん [26]
やまぐち ななえ

U turn

出身高校　静岡県立島田高校

勤務先　株式会社フジヤマ 環境文化部
文化財研究室〈袋井市小山（本社：浜松市）〉

富山大学人文学部歴史文化コースの考古学研究室で考古学を学び、大学時代から埋蔵文化財の発掘調査などに携わる。今年で入社3年目を迎える。小学生だった頃からの考古学ファン。島田市出身。

どうしてこの仕事に？　高校時代から考古学の仕事に関わりたいという希望はありました
休日は？　友だちと食事をしたりスイーツを食べたり。専門家たちが集まる考古学の勉強会に参加することもあります　年収　遊びと貯金が不自由なくできるくらい十分に頂いています　今後の目標　遺跡調査だけでなく、調査後の活用法の提案までできるようになりたいです。他にもまだまだ学びたい事がたくさんあるので、結婚・出産後も仕事を続ける予定です　高校2年生へエールを　やりたいコトや興味のあるコトは、尻込みしないでどんどんやってみてください

天守曲輪（くるわ）の地面を掘り下げると高さ2メートルの石垣が現れた

01　埋蔵文化財発掘調査

浜松城公園の歴史ゾーン整備基本計画が進行中。天守閣があったという天守曲輪内の発掘調査を今年1月から3月にかけて実施した。調査では遺跡を掘り当てるだけでなく、周りの地層の分析も重要だ。地層の色や含まれる石の大きさはもちろん、削る感触で土の粘り気の違いまで判断する。土に埋まった土器や瓦も当然調査対象となる